



# 御挨拶 平成の御造営事業竣功 全国各地からの御奉賛に奉謝



## 宗像大社宮司 養父 守

宗像の地は、上代より大陸文化に富み、我が国の門戸として海外に対し重要な位置を占め、この地に鎮まらず宗像大社は、古事記、日本書紀に明らかにならぬ、日本建国に当り、御親神、天照大神の御神勅により、国家鎮護の大任を受け、天降りました宗像三柱大神をお祭する、極めて尊い御出緒をもつ日本最古の神社の一つであります。その高い御神格は、古

くは「裏伊勢」と称され、朝野の厚、尊崇と絶大なる信仰を集め、宗像三柱神を分祀奉斎する神社は全国六千余社に及んでおります。海の正宮院と称される、沖ノ島より出た十二万点に及ぶ国宝、重文指定の祭祀奉斎品の数々。また、中世までは、宗像全部が九州では唯一の神都として、大社を中心に発展してきたことなど、如何に朝野の敬仰が厚かつたかを物語るものといえます。

しかし、近世に至り、宗像大宮司家断絶の後は、時代の推移とともに神域も漸次減少されて、いつしか名「宗像神社史」上下二巻が

完成。また、昭和二十九年より、第二次、三次、三次と神島ノ島の学術調査が行われ、沖ノ島一統沖ノ島一宗像、沖ノ島の学術報告書が刊行されました。こうした機運の中で、昭和四十四年より四十六年の二年の間に、重文指定の宗像大社の解体修理事業が実施され、昭和三十七年に歩を合せて、神域の復興整備を実現すべく、壮大な構想の下に、昭和三十七年、宗像大社復興期成会が設立され、境内各所の植栽造園により、荘厳な神苑を復興することができました。

その後も、第三、第三宮の再建、神楽殿、儀式殿守礼授与所の建設、沖津宮、重文指定の津宮御殿、津宮本殿の解体修理事業が実施され、昭和三十七年に歩を合せて、神域の復興整備を実現すべく、壮大な構想の下に、昭和三十七年、宗像大社復興期成会が設立され、境内各所の植栽造園により、荘厳な神苑を復興することができました。

更に面社殿の御修理に併せて、神饌所、結玉舎、清明殿、参集所、結玉舎の全面改装、透視改築、防災工事等も行い、平成の御造営として諸建造物の修復事業を進めてまいりました。しかし乍ら、県指定の文化財でもあります津宮本殿、重文指定の津宮御殿、津宮本殿の解体修理事業が実施され、昭和三十七年に歩を合せて、神域の復興整備を実現すべく、壮大な構想の下に、昭和三十七年、宗像大社復興期成会が設立され、境内各所の植栽造園により、荘厳な神苑を復興することができました。

このたびの御造営事業に当りましては、忝くも畏

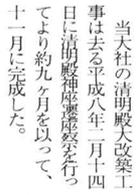
宮の再建、神楽殿、儀式殿守礼授与所の建設、沖津宮、重文指定の津宮御殿、津宮本殿の解体修理事業が実施され、昭和三十七年に歩を合せて、神域の復興整備を実現すべく、壮大な構想の下に、昭和三十七年、宗像大社復興期成会が設立され、境内各所の植栽造園により、荘厳な神苑を復興することができました。

更に面社殿の御修理に併せて、神饌所、結玉舎、清明殿、参集所、結玉舎の全面改装、透視改築、防災工事等も行い、平成の御造営として諸建造物の修復事業を進めてまいりました。しかし乍ら、県指定の文化財でもあります津宮本殿、重文指定の津宮御殿、津宮本殿の解体修理事業が実施され、昭和三十七年に歩を合せて、神域の復興整備を実現すべく、壮大な構想の下に、昭和三十七年、宗像大社復興期成会が設立され、境内各所の植栽造園により、荘厳な神苑を復興することができました。

このたびの御造営事業に当りましては、忝くも畏

宮の再建、神楽殿、儀式殿守礼授与所の建設、沖津宮、重文指定の津宮御殿、津宮本殿の解体修理事業が実施され、昭和三十七年に歩を合せて、神域の復興整備を実現すべく、壮大な構想の下に、昭和三十七年、宗像大社復興期成会が設立され、境内各所の植栽造園により、荘厳な神苑を復興することができました。

# 清明殿大改築工事終る



平成の大御造営事業の一環として大修理が行われ、株式会社「弘江組」が工事を実施した。この清明殿は昭和十一年五月十二日に竣工、同年十月十五日に竣工した。参集所、研修所

し、中廊下がなくなり広くなった。内部は従来の畳敷きからジュタン張りになり、和洋両用の使用が可能である。音響も円卓会議や演芸会講演等多目的の使用に沿ったスピーカー配置、マイク配置になっている。



宗像大社復興期成会、全国宗像者の皆様方より熱誠溢るる御奉賛の御奉賛が相次ぎ、衷心より感謝厚く御礼申し上げます。更にまた、工事施工に当りましては、文化財建造物保存技術協会、大洞信博設計事務所、株式会社弘江組、能美防災株式会社、他それぞれ工事関係者の奉仕の御尽力に対しても深く感謝申し上げます。

新装なった清明殿は結婚式場として、又氏子会館としてさらには、一般の人々の研修所として多様に活用できるように作られている。今玄間頭上に輝く、「清明殿」の匾額を仰ぎ見ると、廣田弘毅閣下が惚れる。岩崎鶴亀氏の遺徳と廣田弘毅閣下の命名揮毫の心を大切に受け継ぎ新しい時代に対応した機能と設備を一層充実して清明殿はここに甦った。

# 宮津大社 宗像大社 重要文化財 指定 御屋根葺き替完工

## 「さわら」材柿葺き切妻妻入造り

当大社中津宮御本殿(原指定文化財)の解体御修復工事と、辺津宮御殿(国指定重要文化財)の御屋根葺き替え工事を中核とする平成の御造営事業の内、辺津宮御殿の工事が一足早く昨年の九月末に竣功した。拝殿御屋根葺き替え工事は本誌既報「平成七年七月号」の通り去る昭和二十八年に御修復して以来四十余年の歳月を経て、風雨に依る破損や寄生する雑草の被害が目立ち、参拝者の間から早く御修復をとの声も高まり、県と国に対し修復許可の伺いを出していたが、昨年六月に文化庁より工事承諾の許可と、県と国の補助金交付の決定通知を受け、事業費三〇〇万円、工期三月で文化財建造物指定業者の(株)島工務店、岡山市の請負にて施工し、拝殿全体を鉄骨足場を囲い、トの板土屋を設け、炎天下の

中作業は、復元工事に進められた。工事は、漆喰で固められた。棟瓦を一枚一枚丁寧に取り外す。外から始まり、次に柿(コケ)葺き屋根の剥離を行。軒板等の補修の後新しい「サワラ」(松)材の割板(厚さ3mm)を葺き、巾10cm、長さ30/50cmを竹釘で一枚一枚打ち留め、最後に解体した棟瓦を元通り漆喰で固め完了した。板土屋と足場を撤収す



と切妻入造の柿葺きの白木板の御屋根が初秋の陽光に映え、御本殿の流造り柿葺御屋根(昭和四十八年御修復)と対称的なコントラストに神門をくぐった参拝者は、しばしの間足を止めお屋根を仰いでいた。

平成の御造営事業の一環として行われた、神饌所の解体修復工事も完了、御屋根の銅板が陽光に輝いている。神饌所の修復工事は、辺津宮御殿の御屋根葺き替え工事に引き継ぎ行われ、内装、外装共に一新された。内装としては、従来祭器庫兼用となっていたため、神饌所中央に間仕切を設けていたが、今回の工事で撤去し、手狭にの間に仕切を撤去し、手狭に感じられていた内部も、かなり広くなった。更に神饌調理台の拡張を行い、神饌調理が手順よく行われるようになっただけでなく、祭器具収納所の新設に伴い、その機能も拡充された。

この神饌所は、明治末期に建立され、昭和の大造営時に修築が行われて、八十一平方メートルに拡充され、当時としては最新の機能を備えていた。しかし約川沿いに吹き上げる潮風と、木陰による湿気の影響で、数年前より各所に損傷が認められた。特に御屋根の損傷は予想以上であり、従来瓦葺きであれば、そう速くない時期に又御屋根の葺き替



又、瓦葺きであった御屋根を銅板葺きとし、白壁の漆喰も塗り替えられ、装いも新たになった。この神饌所の修復は、その機能、損傷から懸念事項の一つであったが、今回の御修復工事により、より充実したものとなった。

残し棟木以下柱、梁、桁を取り下地をコンクリートで固め基礎打ちから重要柱を鉄柱鉄骨で組み上げた。外観は従来の建物と少しも変わらないが、神殿が奥へ二米移動



# 春季大祭齋行

## 神苑に悠遠な平安絵巻

桜前線日本列島を縦断する中、三月三十一日より四月一日まで宗像大社春季大祭が厳粛に運行された。祭典に先立ち、三月二十九日地元総代並びに協力会

は宮内省の奉仕により祭典準備が行われ、生憎の雨にもかかわらず作業は無事終了した。三月三十一日、午後五時より総代地元祭、同六時から



四月一日、晴天に恵まれ定刻午前十一時、養父宮司以下神職、氏子奉幣使、又巻縷の冠、萌黄色の装束の上にて太刀を佩いた主基地方風俗舞奉仕者、十二軍の衣装を着た浦安舞の乙女連、地元総代等が大鼓の合図により参進し、祓舎にて修祓を行った。

# 春季奉納剣道大会

平成九年三月二十日、当社の春季奉納剣道大会と同じ日に、京都武道館で国際剣道大会が行われた。

合は、前日までの大雨で開催が危ぶまれたが、天が味方し、少々肌寒かったが晴天に恵まれた。

平成九年三月二十日、当社の春季奉納剣道大会と同じ日に、京都武道館で国際剣道大会が行われた。日本は九連覇して優勝しているもの、年々外国のレベルは向上して、今年は昨年まで快勝していた韓国に苦戦、大将戦を制して辛くも優勝する事が出来た。

「コテ、メン、ドー」と、日本語で発する掛け声や、さまざまな気合だけでテレビを見てると、世界の侍達が出合をしている様には見えないが、面を取るとそこには、アメリカ、イタリア、ブラジルやアフリカの選手も出場している。剣道も日本だけのスポーツではなく、世界に普及している事が窺える。今年の当社奉納試



- 男子小学一・二年の部 優勝 東郷剣道教室 準優勝 河東剣道教室
- 男子小学三・四年の部 優勝 東郷剣道教室A 準優勝 河東剣道教室A
- 男子小学五・六年の部 優勝 河東剣道教室A 準優勝 自由ヶ丘剣道教室A
- 男子小学一・二年の部 優勝 東郷剣道教室 準優勝 河東剣道教室
- 男子小学三・四年の部 優勝 東郷剣道教室A 準優勝 河東剣道教室A
- 男子小学五・六年の部 優勝 河東剣道教室A 準優勝 自由ヶ丘剣道教室A
- 男子中学の部 優勝 中央中学 準優勝 宗像高校

- 男子高校の部 優勝 宗像高校A 準優勝 宗像高校B
- 女子小学生の部 優勝 自由ヶ丘剣道教室A 準優勝 河東剣道教室A
- 女子中学生の部 優勝 中央中学 準優勝 城山中学A
- 女子小学生の部 優勝 自由ヶ丘剣道教室A 準優勝 河東剣道教室A
- 女子中学生の部 優勝 中央中学 準優勝 城山中学B
- 女子高校・大学の部 優勝 福岡教育大学 準優勝 宗像高校A

- 三月一日 月次祭 出光興産松本支店長 八十島碧海氏参拝 福岡県宗像神社宮司神田典明氏他十一名参拝
- 三月五日 高知県神道青年会々長小原氏他四名来社
- 三月六日 新湯事代代表 催役専務藤村富氏

- 三月七日 白石岬神社 宜大藤龍一郎氏参拝 弘氏神社宮司山本克弘氏他三名参拝
- 三月八日 吉田興産(株)会長 吉田富一氏他三名参拝
- 三月十日 宗像大社氏子会 評議員会
- 三月十三日 共立石油株式会社取締役中村健二氏他一名参拝
- 三月十四日 宗像郡遺族会 総会
- 三月十五日 月次祭 宗像大社菊会理事重吉氏他十六日(朝新出光新人社員四十名参拝)
- 三月二十日 皇霊殿遷座式 三重テレビ放送報道制作部長橋本真一氏中津富取材の件にて来社
- 三月二十五日 九州旅客鉄道(株)東郷駅長花田勝志氏退任並同駅長黒川武氏新任挨拶の為来社
- 三月二十六日 田島区遺族会総会
- 三月二十八日 宗像大社大任役員会
- 三月二十九日 地元総代並協力会春季大祭諸準備奉仕
- 三月三十日 春季奉納剣道大会
- 三月三十一日 春季奉納祭 宮祭 神社本庁事代丹生一氏他三名参拝

# 社務日誌抄

三月一日 月次祭 出光興産松本支店長 八十島碧海氏参拝 福岡県宗像神社宮司神田典明氏他十一名参拝

# 社務日誌抄

三月十四日 宗像郡遺族会 総会

# 社務日誌抄

三月三十一日 春季奉納祭



他五名参拝 三月七日 白石岬神社 宜大藤龍一郎氏参拝 弘氏神社宮司山本克弘氏他三名参拝

田野 森 甲子 風と共潮の満ちる釣川の河口に白き波立ちやます

ひかりヶ丘 藤原みさと 八十六は母の天寿なりしやとわれとわが問ふ山茶花咲けば

田野 森 甲子 沖繩の民族舞踊舞ふ人の指しなやかに四つ竹鳴らす

# 第四十回 宗像大社歌会詠草

大野 展 男 選 毎月末日ノ切

田野 森 甲子 風と共潮の満ちる釣川の河口に白き波立ちやます

田野 森 甲子 沖繩の民族舞踊舞ふ人の指しなやかに四つ竹鳴らす

田野 森 甲子 空炊きせしガス釜の辺を離れて二月の水に青葉洗ひぬ

河東 薄 かなる 工事場の残物燃すか雨の日は谷の向かふに埋立ちをり

福間 中村 勇 筆太に貸家ありとの立札を沈し花薫る門先に立つ

福間 中村 勇 遠くより雅楽流れる下萌への芝に座りて過すひとと

日里 大和由紀 遠くより雅楽流れる下萌への芝に座りて過すひとと

福間 池浦千鶴子 人參の根元さぐりてためより抜き採るたのしみこの年にて知る

原 町 八波 五月 在りし日の母と遊びし我が晴着娘が着て今年には孫が着るなり

朝野 藤井 浩子 街中の上ぐる程の木に手を触れ頭を下げる女あり

曲 天野 玲子 小米花盛りを過ぎて夕風に白き命を散らし始めぬ

八幡西 有吉 陽子 冬海に逆巻く波のしづき受け大小の岩勇然と立つ

津屋崎 佐々木和彦 雨垂れば物干し竿にふくらみて白く見えたるせつなに落ちぬ

福間 二宮 末子 腰痛の我を慰め励ますか鳴く鶯の声のやさしき

福岡中央 山下しづえ 目覚れば笠をかぶりし六地蔵いづくにゆくのか桜散るなか

武 丸 中村さつき 茶柱の立ちしと古桶の夫を寿き穩し朝のひととき過す

九十六の翁手振りして歌ふ

宗像大社歌会

若松 高橋 忠實  
波の音遠か遠くに小石仏

福岡 森 清  
朝の雨さらば梅の香匂わせ

日ノ里 花田いづ枝  
四十路なる子と酌み交す梅

福岡 二宮 末子  
風香る敷島の初音かな

自由ヶ丘 細川 絹子  
酒すこし目元うるめり難の

東郷 吉武 湧水  
猿徳を去りて閑居の花鏡

東郷 中野 きみ  
親子らし初音の調子揃はざる

東郷 吉田 鈴子  
彌生老を向ふに押しやり

東郷 吉田 杏子  
命あるこのよこびや春彌

東郷 三浦 三代  
臥草梅夫と愛でし日遠き日

東郷 有吉重紀子  
彌生老七福神の顔笑し

東郷 田中 雨葉  
ふらこや連引寄せ且つ

東郷 木原 房子  
昨日二分今日は三分の庭の

藤沢 井上 玄洋  
密やかに夜明けを告げる花

辛夷

(続) 浜の寄物

115

いししいただし

三月中旬 伊勢・鳥羽を巡ってきた。伊勢神宮参拜後に、神宮御古館、豊饌館それに平成五年の第六一回式年遷宮を記念して創設された神宮美術館を見学。矢野憲一館長もお会いしてきた。鮫、鮑、枕と出版。現在は杖を執筆中とのことだった。「物と人間の文化史」への限りない探究心にはただただ敬服する。鳥羽では海の博物館を見



写真展示館

宗像むかしばなし 玄海の一ツ火(下)

当時幕府は対外的警戒の政策から、航海貿易の取締りを強化した。このため徳川時代を通じて名ある商人の処刑されたものも少なくない。大阪の淀屋辰五郎が追放、越後の錢屋五平はその三男が磔刑、長崎の末次平蔵が流罪、最も悲惨極まる処刑が黒田藩に捕縛された博多の伊藤小左衛門とその一族親類縁者であった。耶穌教の布告を看板に東洋に跳梁して、植民地を作り暴利を奪う紅毛人の情

配もあり薬を一服飲み、ついでにビールを三缶飲む。すっかりいい気持ちになった。博多を出て四〇分ぐらいた。小島島。私の住む福岡町花見の海岸からは晴天の日はよく見える。二つに島があるように見える。二つは実際は一つの島である。いい気持ちになつてどうと見ていると右側に沖ノ島が見えるという放送があった。右側の方へ行って見ると、左側側の座席に眠たくて体が動かない。一時少し過ぎに釜山港に着いた。釜山はハゲ山が多。その上の方まで住居が建ち、また建設中の高層住宅があらちこにある。港には漁船、大型タンカー、建造中の船、貿易船でいっぱいである。韓国第一の都市釜山の活気が伝わってくる。釜山市内の見学は翌日では三海を渡って狗頭嶺へ到着したが、ピートルは一海を渡つて釜山に着いた。しかも三時間という速さである。その日は風邪が強く波があつたので船酔いの心と憎悪して、今日に至つてもその悪感情は一部に残つて消えない。陰謀記述の中に艶話も添えてみよう。小左衛門は長崎の丸山の遊女貞歌を妾としていたが、貞歌は主人の刑死を悲し男女二人の供をつれて刑場の小島に入った。その時、その莫大な財産に行つたが果敢と、その近くの巖頭から身を投じてあとを追つた。屋敷の追慕と投身は、津波に溺れ、身を養うお露はこれに嫁した。信次お露は伊藤七のすすめ、病身のお露に事件の露頭を知るや番頭茂の連絡に当たつたとみる人もある。真偽のほどは解明すべし確かな資料を欠く。



東三洞貝塚

玄海の神宮

(60)

露天における祭祀  
沖ノ島祭祀は、四一五世紀から始まり、六〇〇年の間続けられた国家的祭祀と言われている。この古代祭祀の中でも、最終段階に属する露天祭祀は、七世紀末から十世紀初頭にかけて行われてきた祭祀形態である。島の南側にあたる四百段からなる参道を登つて行く。ゆるやかな平地、ここから巨岩をなす古代祭場及び現在の沖津宮社殿が目に入る。島の祭場への入り口の脇に二号、二号、三号遺跡と三ヶ所の祭場が続いている。中でも一号祭場が最大の規模を有する露天の祭りの跡である。一号祭場のあるあたりは、海側の旧参道と、今の参道とに道が本分かれる地点である。この両参道に挟まれるようなかっこうで、ゆるやかな傾斜の上に形成されているのが一号祭場である。ここの一号祭場には奉獻された品々は、遺石製形(代類人形・馬形・舟形)、金銅製雛形品、須臾器類が多く、その中に混つて奈良、三彩小壺、唐製八棧鏡、富寿神宝、皇朝十二銭の一等品なども奉獻されている。丁度遣唐使派遣が始まった(六三〇年)頃、ここの二号では祭祀が始まり、遣唐使が廃止(八九四年)された翌年頃まで祭祀は続いた。四世紀頃より大和朝廷の対外交渉が始まるや、朝廷と地方豪族の宗像海人族とによる合同の祭祀、沖ノ島古代祭祀が起つてくるが、岩上祭祀から連続とついで、岩上祭祀の祭りに、遣唐使の廃止にともなつて、国家的祭祀の終焉をむかえる。これが一号祭場である。一号祭祀奉獻品の中で特に、奈良三彩小壺、八棧鏡、皇朝銭などは沖ノ島の奉獻品としては初めて使用された最新製品で、一号祭場のみへ供えられている。沖ノ島の祭祀は奉納品から考へて、各時代ごとに各祭場で行われた一祭祀一祭場であったのが、内陸での祭祀が社殿での祭祀に変わりつつあつた時代に対して、ここの一号祭場には奉獻された品々も、遺石製形(代類人形・馬形・舟形)、金銅製雛形品、須臾器類が多く、その中に混つて奈良、三彩小壺、唐製八棧鏡、富寿神宝、皇朝十二銭の一等品なども奉獻されている。丁度遣唐使派遣が始まった(六三〇年)頃、ここの二号では祭祀が始まり、遣唐使が廃止(八九四年)された翌年頃まで祭祀は続いた。四世紀頃より大和朝廷の対外交渉が始まるや、朝廷と地方豪族の宗像海人族とによる合同の祭祀、沖ノ島古代祭祀が起つてくるが、岩上祭祀から連続とついで、岩上祭祀の祭りに、遣唐使の廃止にともなつて、国家的祭祀の終焉をむかえる。これが一号祭場である。

